

# あわら市郷土歴史資料館だより

Vol. 2

## 「北陸最大級の横山古墳群－神奈備山古墳とその系譜－」展回顧

館長補佐 橋本 幸久

「26 年度冬季企画展」では、北陸有数の古墳数を誇り、前方後円墳を多数含むことで著名な横山古墳群に焦点を当てました。

横山古墳群は、福井県あわら市中川から瓜生を経て坪江に至る、通称「横山」丘陵上に殆どの古墳が立地します。中司照世氏らの現地踏査によると、古墳群は総数 301 基以上を数え、中川、瓜生、坪江の三支群に大別されます。しかし、古墳分布は丘陵頂部より西側に偏在し、東側斜面ではこれまで古墳は未確認です。これは、本古墳群を造営した勢力の権力基盤が西側に広がる坂井平野や、眼下を流れる竹田川方面にあり、そちらを意識したためでしょう。

越前の古墳を代表する大首長墓は、永平寺町の全長 129m の前方後円墳である手繰ヶ城山古墳を初代とし、以後、坂井市丸岡町の全長 140m と福井県最大の前方後円墳の六呂瀬山 1 号墳、全長 90m の同 3 号墳と九頭竜川兩岸の山頂に相次いで築造されました。その後、突如として福井市北西部の日本海岸沿いの低丘陵上に帆立貝形を呈する全長 91m の免鳥長山古墳が出現しました。次に、同じく帆立貝形で周溝をもつ全長 64m の泰遠寺山古墳が再び九頭竜川沿いへ戻り、旧松岡町の平野部に築かれました。しかし、次代とされる石舟山古墳は旧松岡町の標高 257.8m の山頂に築かれた全長 79m の前方後円墳で、その次の二本松山古墳も、標高 273.1m と最高所の山頂に立地する全長 89m の前方後円墳です。これらの大首長

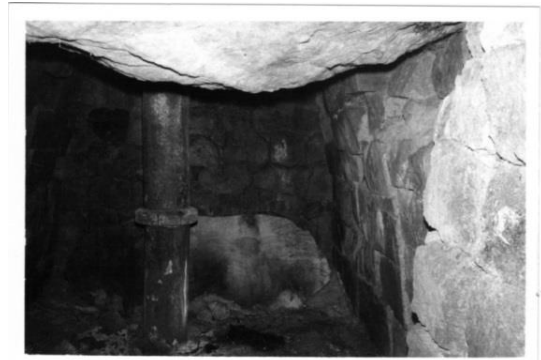
墓は段築、葺石、埴輪を完備するものが多く、埋葬施設は福井市の足羽山で産出する笏谷石製の舟形石棺と思われま

す。次代の越前の大首長墓とされるのが、展示した横山古墳群中の椀貸山・神奈備山両古墳です。椀貸山古墳は、越前では珍しく平野部に立地し、段築、葺石、埴輪、盾形周濠を完備した全長約 45m の前方後円墳です。埴輪には中川 65 号墳同様、尾張系の底部調整痕を持つものが見られるようです。

神奈備山古墳は越前最後の大首長墓と目され、標高約 42m の丘頂部に立地する全長約 58m の前方後円墳で、埴輪はもちませんが、葺石、段築があり、墳丘下に古墳を大きく見せるための基台部を備えます。

現在、実見出来ませんが、どちらも埋葬施設は横穴式石室で、内部に北部九州で盛行した石屋形があるとされ、これまでの伝統的な埋葬方法が変化した一大画期です。

横山古墳群は、古墳時代後期主体の古墳群とされ、継体天皇擁立と関連付けられてきましたが、これまで発掘調査例が少なく、実態解明を妨げています。今もこの問題は解消されませんが、このまま大切に維持し、次世代へと継承していくことが肝要であり、当館を含む本市の責務でもあります。



神奈備山古墳石室内の状況

# 高塚向山遺跡土壙出土資料から — 越前に於ける気屋式土器 —

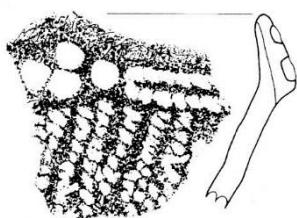
郷土歴史資料館「一般展示室」の一角に設けた《ふるさとの歴史ゾーン》は、[あわら市から見る日本史]を主眼に掲げた。そこには、市内出土の考古資料も〈常設展示〉、縄文時代のコーナーで高塚向山遺跡出土資料も展示している。

該遺跡は、福井平野北部に広がる加越台地の南東縁辺部、始源期の石製装身具類を多出した桑野遺跡の北方に位置、従来は〈縄文時代後期初頭のみ短期間営まれていた〉と限定的理解の下にあった遺跡が、各時代に跨り土地利用を為されていたのである。

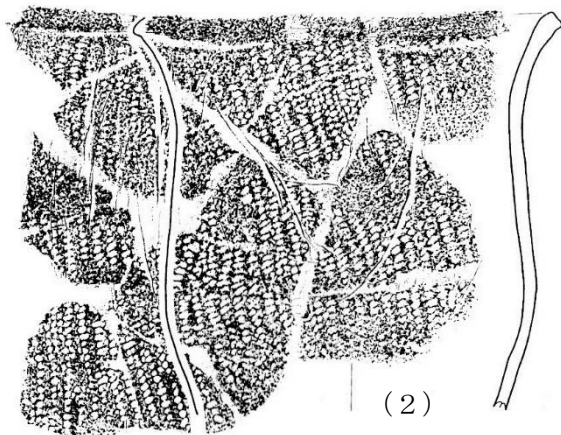
今回、調査区央部付近に存し、本来楕円形を呈していたと推定される土壙の西南壁際底面に、密着かつ重複して検出された資料のうち確認された『気屋式土器』の諸相を、〈列品解説〉する。

「気屋式」とは、三角形連続刺突紋を示標として設定された、北陸の縄文後期前葉に位置、石川県の能登・北加賀と富山県・越中を中心とし、分布域が比較的狭い範囲に限られた、地域色の濃い「土器型式」として知られている。

嘗て、越前に於ける分布は稀薄であると認識されていた気屋式も、奥越・右近次郎遺跡に識別されたのを端緒として、(1)の如き資料が高塚向山遺跡から



(1)



(2)

高塚向山資料 (1)・(2) 気屋式

検出、分布域を西方に拡大している。

(2)もまた「気屋式」の範疇で理解されている資料である。土壙底面より出土した。推定口径 21.9 cm、残存高 20.4 cmを測り、口縁は肥厚気味、胴側には気屋式特有の縦位縄紋が施された粗製深鉢である。

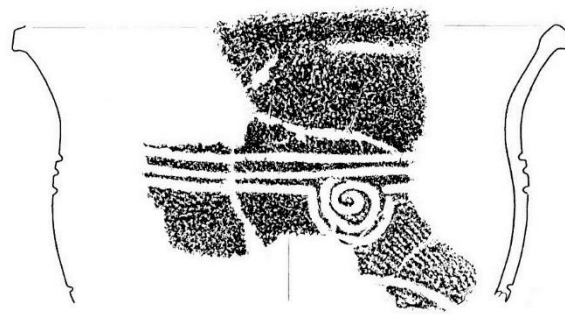
抑々、縄紋土器は“型式”と云われる地方差・年代差を扱う際に用いる単位に細かく分類され、時空間に正確な秩序を与える“編年”の作業を経て、年代決定のみならず文化の動態が明らかとなる。

こうした“縄紋土器編年”こそが、正に先史考古学に於ける型式学的研究の《筋金》であり、この研究法の確立に因って、『先史考古学ははじめて科学になった』とまで云われた。

(3)は、近畿地方の縄文後期前・中葉の型式で、広く西日本に「縁帯紋土器」として総称されるうち、『北白川上層式』の範疇で理解されよう。推定口径 29.8 cm、残存高 14.7 cmを測り、上下を区画する沈線内に渦巻いた“単位紋”を描く“磨消縄紋”鉢形土器である。施紋様は、南西四国・「平城式」との関係をも想起させる。

(2)・(3)は、密着・重複した状況で検出され、出土状況は両者の共伴関係を物語る。其の為、考古学研究の常道であり、かつ根幹を成すところの、“交差編年”を考案する上で重要であり、列島の“編年網”構築に資する資料となる。

(文化財調査専門員 木下 哲夫)



(3)

(3) 北白川上層式 (2)・(3)は土壙底面に共伴

# 新市指定文化財（歴史資料） 指中の板碑

阿弥陀三尊をあらわす梵字  
(阿弥陀如来、観音菩薩、  
勢至菩薩)



□□□□□□法界  
□□利益之故也  
□安二

念佛一結衆敬白

銘

指中の板碑

今年3月市に新しく文化財が加わりました。  
指中地区に古くから伝わる「板碑」です。

本資料は、(1)上部を山形に整形し二条の線を入れていているところ、(2)上部に大きく梵字が彫られ、下部に年号や施主らしき人々と思われる文字が刻まれていることなどから、全国各地で中世前・中期に見られる板碑の特徴をよくあらわしており、刻まれた年号が「□安二」とあることから応安二(1369)年のものではないかと推測されます。

これと同じような時代かつ形態を持つ板碑は、福井県内では旧坂井郡に数例を見るだけで、あわら市内にきちんとした形で残っており、現在確認できているものでは本資料が唯一となっています。

板碑文化の伝播や当時の様子を知る上で、大変貴重な資料です。

## 平成26年度 事業報告

### 1. 冬季企画展

テーマ：北陸最大級の横山古墳群－神奈備山古墳とその系譜－

内容：北陸最大級の横山古墳群中で数少ない発掘調査事例であり、かつ越前最後の大首長墓である神奈備山古墳の出土品を中心に、その系譜にも迫りました

期間：平成27年1月14日(水)～3月22日(日)

入場者：959名

### 冬季企画展示関連講演会

テーマ：ふるさとの古墳

内容：福井県越前地方の古墳の変遷を、自身が調査した古墳の事例からお話されました。また、そのあと展示を見ながら資料解説もしていただきました。

開催日：平成27年1月25日(日)午後1時30分～

講師：水野 和雄 氏(前一乗谷朝倉氏遺跡資料館長)



講演中の水野氏

## 2. ふるさと講座

第5回	あわら市の文化財 (その3 史跡—柵古墳・横穴式石室—)	橋本 幸久 (館長補佐)	平成27年 2月14日(土)
第6回	宿場あれこれ —細呂木宿から金津宿へ—	由水 勇氏 (市文化財保護委員)	平成27年 3月14日(土)

## 3. 資料館入場者数

月	男性	女性	計(人)	開館日数	月	男性	女性	計(人)	開館日数
26/4	243	303	546	25	10	225	231	456	26
5	207	209	416	26	11	327	257	584	25
6	363	421	784	24	12	107	100	207	23
7	469	429	898	26	27/1	249	198	447	23
8	332	283	615	26	2	162	151	313	23
9	241	254	495	24	3	204	182	386	25
					合計	3,129	3,018	6,147	296

## 平成27年度イベントスケジュール

2015				2016											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
* 本陣飾り物 (会場: 郷土歴史資料館 本陣飾りギャラリーゾーン)															
平成26年度作品展示				展示入替		平成27年度作品展示									
* 展示 (会場: 郷土歴史資料館 企画展示ゾーン)															
春季企画展 「あわらの文化財—石造狛犬を中心に—」 4月21日(火)～6月28日(日)				夏季テーマ展 「計る—あわらの民具—」 7月7日(火)～8月30日(日)		秋季企画展 芦原温泉開湯190年記念 「芦原温泉の歴史」 9月8日(火)～12月20日(日)				冬季企画展 「中世あわらの豪族・清江一族」 1月13日(水)～3月27日(日)					
* 講演会・ふるさと講座 (会場: 講演会・金津本陣IKOSSA3階 大ホール、ふるさと講座・金津本陣IKOSSA 研修室1)															
第1回ふるさと講座 「金津祭り」と本陣飾り物の歴史」 4月19日(日) 講師: 稲田 信夫氏 (六日区本陣飾り制作担当者)	春季企画展関連講演会 「中世の板碑」 5月31日(日) 講師: 千々和利氏 (国学院大学教授)	第2回ふるさと講座 「宿場あれこれ その2」 6月21日(日) 講師: 由水 勇氏 (文化財保護委員)		第3回ふるさと講座 「あわら市の文化財 史跡・雨子塚」 10月18日(日) 講師: 坂野 尚氏 (文化財保護委員)				第4回ふるさと講座 「戦乱を生き抜いた清江一族」 1月17日(日) 講師: 児玉 常聖氏 (妙隆寺住職)		第5回ふるさと講座 「ふるさとのやきもの—芦原焼—」 2月21日(日) 講師: 九千男 英之 (当館学芸員)					
* 体験・解説 (会場: 解説・郷土歴史資料館 展示室、体験・市民文化研修センター 研修室1)															
5月10日(日) 春季特別展示室 列品解説	6月14日(日) 春企画展 解説	7月12日(日) 夏季テーマ展 解説	8月2日(日) 勾玉つくり 8月2日(日) 夏季特別展示室 列品解説	8月9日(日) 夏季特別展示室 列品解説	9月20日(日) 秋季企画展 解説	11月8日(日) 秋季特別展示室 列品解説	12月13日(日) 新設展示 解説	3月13日(日) 秋季特別展示室 列品解説							
* 重要文化財 桑野遺跡装身具展示 (会場: 特別展示室)															
春季展示 —白色素材を中心に— 3月14日(土)～6月7日(日)				夏季展示 —カゴ田懸材品を中心に— 6月30日(火)～8月30日(日)				秋季展示 —歌玉棟・小型品を中心に— 9月15日(火)～11月29日(日)				冬季展示 —複数対・清石材品を中心に— 1月9日(金)～3月21日(日)			

### 利用案内

開館時間: 9時30分～18時

休館日: 毎週月曜日・毎月第4木曜日

(これらの日が祝日の場合はその翌日)

交通: JR 芦原温泉駅より 徒歩 15分

北陸自動車道金津 ICより 車 15分

駐車場: 普通車 46台・身障者用 2台、軽自動車 1台

### ■あわら市郷土歴史資料館だより Vol.2■

平成27年5月15日発行

編集・発行 あわら市郷土歴史資料館

住所: 〒919-0632 あわら市春宮 2-14-1

電話: 0776-73-5158 FAX: 0776-73-1038

e-mail: maibun@city.awara.lg.jp